

平成 22 年度 第 3 回「歩くまち・京都」推進会議 摘録

1 日 時 平成 23 年 3 月 30 日（水）午前 10 時 ～ 12 時

2 場 所 キャンパスプラザ京都 2 階 「ホール」

3 出席者 別紙出席者名簿

4 議 事

- ・ 戦略に掲げる実施プロジェクトの主な進捗
- ・ 3 つの推進マネジメント会議の状況
- ・ 戦略の効果検証について

（1）開会

（塚口会長：立命館大学教授）

- 震災という大きな試練に対して、東日本だけでなく日本全体で立ち向かっていかなければならない状況にある。
- 「歩くまち・京都」の未来のイメージのようなクルマに頼りすぎない「歩くまち・京都」が着実に実現できれば、災害に強いまち京都の 1 つの道筋につながると思う。そういった観点からも、着実に議論を進めたく、建設的かつ積極的な意見を賜りたい。本日もよろしくお願い申し上げます。

（2）議事および意見交換

（塚口会長：立命館大学教授）

- 3 つの推進マネジメント会議での論点を事務局から説明いただいたが、各推進会議のメンバーから補足があればお願いしたい。

（正司委員：神戸大学大学院教授）

- 京都フリーパスの 2 日券の方が多く売れているのは、J R との連携により販路が確保されたことと、2 日間使えるという競合企画券が少なかったということがある。今後、販売期間や販売箇所の拡充という議論の中で、どういう層を販売ターゲットとするか、といった議論が公共交通ネットワーク推進会議であった。
- 情報提供に関しては、近畿運輸局がバスのルート検索について、ベンダーとの連携を進めはじめている。一方で、バス停などでのアナログな情報提供として、例えば共通の案内図を置くなどの取組をバス事業者連携で初めてはどうかといった意見があった。もちろんバスだけでなく鉄道との連携も合わせてやっていくことは言うまでもない。

(土井委員：京都大学大学院特定教授)

- 未来の公共交通推進会議では、前はロードプライシングについての議論を中心に議論していたが、個々の施策を掘り下げるよりも、88ある実施プロジェクトの優先順位を検討する必要があるという観点で、特に都心エリアを重点的に検討する地域としていくこととなった。
- 都心に絞るといろいろ見えてくるところはあって、鉄道は充実しているにもかかわらず、まだ自動車から公共交通へ転換する可能性が考えられる。
- また、バスの再編、タクシーのあり方を考えて行く必要がある、特にバスについては、都市の構造、将来のLRT導入も見据えつつ、交通計画的なバスの再編を考えて行く必要がある。そのためのデータがまだ不十分で、バスのデータを把握した上で検討が必要である。未来の公共交通推進会議のメンバーに交通事業者が入っていないので、参画の必要性があると議論しているところである。
- 今後、費用を考えながら何をすべきかを具体的に考えて行きつつ、どのような順番で手がけていくかを整理できればよいかが重要である。

(村上委員：株式会社京都放送ラジオ編成制作局長)

- 「スローライフ京都」推進会議では、市民委員にも入っていただき、生活者目線での議論が中心となっている。
- 歩いて楽しいまちのための歩くきっかけの1つとして、シンポジウムをラジオと連携して実施した。参加者が家庭や職場で広げてもらいたいという意見があった。
- シンポジウムについては、どちらかというと中高年の方を対象に歩くまちの魅力を発信するという観点であった。一方で若い人にはどういう訴求ができるかという点で、ツイッターの活用の話が出た。これは1月の推進会議で出たアイデアであったが、早速、事務局に実現いただけた。
- また、母親の観点から、しつけに公共交通を活用するということで、公共空間に就学前のこどもを移動手段として使うことが、子育てにもつながると思われ、その点も含めて公共交通の活用の発展は考えられないかという意見がでた。
- その他様々なアイデアが出されたので、事務局が効果や実現可能性を検討して、強力なリーダーシップを持って推進してもらいたい。

(藤田委員：フリーエディター)

- バスの車内でのスマートフォンの活用などが公共交通ネットワーク推進会議の論点として挙がっていたが、現在、市バス車内では携帯電話の利用は控えるようにアナウンスがされているのではないかと記憶しているが、バス車内の情報オンライン化と相反するのではないか。

(事務局)

- 優先席付近では使用をお控えくださいということだったかも知れないが、確認しておく。

(正司委員：神戸大学大学院教授)

- バス車内の情報オンライン化については、ＩＣカードの導入に併せて、通信機能を持たせて、バスを降りた時にバス停周辺の色々な情報が取得できるような事が出来ないか、というような議論をしている。鉄道では既に同様のサービスがある。その延長として、もちろん優先席付近での使用は控えることを前提に、バス車内でも沿線の見所情報を提供できないかという御意見であった。

(佐伯委員：京都市地域女性連合会副会長)

- 京都フリーパスの販売実績があったが、発売期間はいつであったか。

(事務局)

- 「京の冬の旅」とタイアップとして、平成 22 年 12 月 11 日から平成 23 年 3 月 23 日までを販売期間とした。販売状況としては、出足は良かったものの、後半に失速して、予想以上というところまではいかなかった。

(内藤副会長：京都大学名誉教授)

- 京都駅ビルの改修が構想中であり、新しい時代の京都駅へ変えていくための議論をしている。京都駅南口駅前広場の整備と連携していければと思う。
- 附置義務駐車場の削減については、ややもするとコインパークなどの小規模駐車場の整備を誘発するのではないかと危惧している。おそらく土地の活用とか経済性の問題もあり、コインパークにされる地主の方がおられるのだと思うが、税制面などの総合的な対策が必要ではないか。

(事務局)

- 改定した駐車場整備計画の中で、小規模駐車場の整序化についても触れている。計画の内容としては、駐車場条例の改正により付置義務の見直し、歴史的都心地区において、隔地制度における駐車施設との距離の緩和、新たな駐車場整備の規制などである。更に、公共交通利用促進の計画実施に対する付置義務の緩和を今後具体的に考えていく。
- また、大店立地法に基づく自動車分担率についても見直しを図っていく方向で考えている。

(森本委員：京都工芸繊維大学大学院教授)

- 先ほど、公共交通をしつげに活用するというアイデアが話題に出たが、「歩育」(ほいく)ということで推進できればよいのではないか。
- 参考資料として添付されている「歩くまち・京都」の未来のイメージについて、文章だけでなく映像を作成されると、非常に分かりやすく良いのではないか。
- 戦略の効果検証ポイントのうち、道路機能に関して、道路ネットワークというキーワードが出てくるが、それに加えて、歩道ネットワークという言葉が出てくれば歩くということにつながるのではないか。
- 歩くことを積極的に推進するという点と、結果として歩くことになるという状態は違うと感じている。

(事務局)

- 結果的に歩かざるをえないというのは望ましくなく、歩くことを積極的に推進したい。歩きたくなるまちづくりを進める中で、公共交通を利用しながら積極的に歩きたくなるまちづくりを進めていきたい。

(平井委員：京都商工会議所地域開発・都市整備委員長)

- 未来の公共交通推進会議の「未来」とは、どれくらい先の未来なのか。目標年次によっては、LRTなどについて財源なども位置づけていく必要がある。

(今福代理：醍醐コミュニティバス市民の会事務局長)

- 関連して、京都市の基本計画の中に、「歩くまち・京都」がどういう形で位置づけられるのか、教えていただきたい。

(事務局)

- 環境モデル都市においてはCO₂削減量の目標値・目標年次が定められている。一方で、インフラとして新たな公共交通を整備するとなると、財源も含めてかなりの議論が必要となる中で、基本計画で定めた計画期間の10年で、88プロジェクトがすべて出来るわけではない。しかし、50～100年先という話にもならない。未来の公共交通推進会議においては、概ね20年～30年を目指した議論としているところである。

(土井委員：京都大学大学院特定教授)

- すぐにでも実施できることは実施していく。しかし、時間がかかることは実施しないということではなくて、どのように戦略的に実施できるのかということを経験していきこうと考えている。目標であるゴールと、そのための手段との関係を整理した上で、予算と実施主体を決めていくのが今の段階であると考えられる。
- 効果を図るための検証は必要であり、実施プロジェクトと結びつけて、しっかりした調査をやっていく必要がある。

(塚口会長：立命館大学教授)

- 平井委員のご指摘は、出来ることは早急に実施すべきであるということだと思う。すぐに答えが出るわけではないが、今後の議論の際には、柔軟な形で対応いただきたい。
- 効果検証については、今の時点で方向性を決めておいて、今後、同じ指標で一定の期間継続してデータを取って行かねばならない。

(小路代理：国土交通省近畿地方整備局建政部都市整備課長)

- PDCAを、短期的な視点と中期的という視点の双方からチェックいただくことが重要である。毎年、アウトカム指標について深い分析を実施することは不可能であろうと思うので、アウトプット指標による進捗チェックと組み合わせる必要があるのではないか。

(事務局)

- 効果検証については、データ収集については交通事業者の既存データの収集をご提供頂いて、経年データを集積していく中で確認していきたい。
- 歩行者の属性については、既存の調査がないので、初年度については、経年比較することは出来ないが、今後蓄積していく中で2～3年後に評価が出来る仕組みを構築する。

(森本委員：京都工芸繊維大学大学院教授)

- 市民満足度については、歩くことに対する満足度を是非確認いただきたい。また、歩行者属性と満足度の関係も欲しい。

(事務局)

- 「道路ネットワーク」という文言は、「歩くまち・京都」総合交通戦略」の未来のイメージから抜粋したものであるが、効果検証のポイントとして、着実に進行していくかどうかで検証していきたい。
- 道路については、これまで自動車交通を如何に円滑に処理するかに重きを置かれていたが、今後は、歩く機能を道路に持たせる必要があり、先日もシェアード・スペースの社会実験も実施したところである。歩行者が優先で、道路を共有するという観点での歩道ネットワークの概念は必要であると感じる。

(塚口会長：立命館大学教授)

- 未来のイメージでは、「歩行者、公共交通、自転車、クルマそれぞれの特性に応じた道路ネットワーク」とあるとおり、道路ネットワークに関する文言はこれで良いと思うが、先ほど提案があった「歩道ネットワーク」より「歩行者空間ネットワーク」という概念が良いように感じた。

(土井委員：京都大学大学院特定教授)

- シンポジウムのパネルディスカッションでは、「四条通の歩道拡幅について賛成か？」と質問したところ、YES の割合が非常に多かった。市民に支えられているという実感があった。また拡幅についての反対意見も含めて、その理由について把握すべきである。
- 市民満足度のアンケートの設計は、なかなか難しい。スマイルマークを選択肢とすることにより、言葉ではない感性面からの評価ができるのではないかと。字面だけでなく、感性に訴えていくことでうまく評価指標として活用できると考えられる。
- 地価は測定が難しいかもしれないが、私が関わっている富山市の場合は、市全体の地価が下がっている中、路面電車の沿線は地価が落ちていない。すべてが、路面電車を整備した効果とはいえないが、少なくとも路面電車の影響もあると考えられる。
- 戦略の効果検証のポイントでも、社会経済が挙げられており、そういった観点から検証されると思うが、地価も見ればよいのではないかと。

(平嶋委員：国土交通省近畿運輸局企画観光部長)

- 効果検証については、歩行者交通の観点として、歩行距離を把握できると、よりダイレクトな指標として良いのではないかと。
- 施策を実施して、皆さんが実際に公共交通を使っているようにするためには、MM がセットになると思うが、どれだけ使いやすくなったか、ここが変わった、という情報や認識度に関して、市民の意見を集めることも重要である。
- 売り場面積と同様の趣旨の指標として、新規出店数も収集しやすいデータではないかと。
- 効果検証については、社会経済動向の変動の影響を如何に補正するかがポイントになる。観光の動向などについては、時期による変動も考えられ、そういう変動を分離しながら分析するのが望ましい。

(事務局)

- MM の取組の中で、時刻表など戸別配布などを実施しているが、いかに便利になったか、今使っていない方への PR が重要と考えられ、利用者の声の収集と、まだ利用されていない方の意向収集に努めていきたい。
- 新規出店データについては、担当課と連携して反映していきたい。
- データの収集時期については、京都市は観光の影響により季節変動が大きいので、工夫が必要であると考えている。

(佐伯委員：京都市地域女性連合会副会長)

- バスの運転マナーの向上についても取り組んでもらいたい。心ない運転手の対応で気分が台無しになったという観光客の投稿が新聞にあった。

(事務局)

- 乗務員のマナーに関しては、現在でも、乗務員研修を熱心に取り組んでいるところであるが、なかなか現場レベルまで浸透しきれていない面もあるかも知れない。
- バスだけでなくタクシーも同様であると思われ、タクシーのドライバーを対象とした客待ち駐車の前整序化などのMMを実施しているところであるが、道路の機能の見直しの中で、複合的に実施しなければ改善できない。
- 乗務員の話も含めて、公共交通ネットワーク推進会議にもフィードバックしていきたい。

(村上委員：株式会社京都放送ラジオ編成制作局長)

- 新聞の投稿欄には、公共交通に対して、肯定的な意見も掲載されている時があり、「歩くまち・京都」を推進する当事者として、率直にうれしく思う時がある。乗務員のマナー向上については、交通局職員が声をだして挨拶をされたりしている場面も見かけるが、非常に気持ち良くなる。
- 地下鉄駅などで、利用者の声と、それに対する交通局の対応を掲示できる掲示板があると、双方向のコミュニケーションが出来て、利用者の声を取り込んだ利

便性向上策が実施できるのではないか。

(正司委員：神戸大学大学院教授)

- 公共交通に関する情報提供は進めていくが、そもそもそういう情報がなくても移動できるような便利な公共交通を構築するのが良いのでは、という議論もしている。
- 効果検証の数字に目が行きがちだが、実施プロジェクトを前に進めるために効果検証をするのであって、効果検証の数字をあげることで自体が目的ではないということを、忘れないようにしないといけない。

(関代理：京都府建設交通部交通政策課長)

- 計画を作ることが目的で終わることなく、実際に推進しているという姿勢について敬意を表したい。継続的な実施が大事であり、「歩くまち・京都」の重要性をプロパガンダとして言い続けていくことで、それが常識になることを目指して、引き続きよろしくお願ひしたい。
- 地方自治体や交通事業者が 1 つの目標に焦点を合わせて検討していくことが重要であり、そのためには施策を推進する人材育成が大事であると思う。京都府も京都大学と連携して人材育成のユニットに携わっており、協力していきたい。例えばテーマを絞って、MM を実施して実績を積み上げて、その結果、目指している未来に近づく、というまとめ方が良いのではないか。

(山形委員：京都府警察本部交通部長)

- 総論が賛成多数であることは、間違いないと思うので、総論賛成・各論反対という状況に陥った時に、反対意見へのしっかりとした説明が大事と考える。課題をクリアしながら進めていく必要がある。

(平井委員：京都商工会議所地域開発・都市整備委員長)

- 東山と嵐山において、観光地交通対策研究会が設置されているが、両研究会からの意見を本推進会議に報告していただき、反映していく必要があるのではないか。ハード面での施策実施も欠かせないが、京都のまち全体をどうするか、ということも合わせて考えていかねばならない。

(事務局)

- 東山、嵐山それぞれで、警察はじめ関係各位の協力のもと取り組んでおり、交通規制なども実施している。また、東福寺付近の九条陸橋の観光バス待ちによる滞留も一定解消されたところである。
- 一方で、嵐山の罌原堤に他府県ナンバーが並んで渋滞するという状況は引き続き起こっており、京都に来られる前から有効な情報提供の仕方が重要と認識している。今後も観光交通対策について複合的に取り組んで参りたい。

(内藤副会長：京都大学名誉教授)

- 京都のCO₂削減に向けて厳しい見通しとなっている中で、目標の実現は、「歩

くまち・京都」の実現にかかっている。戦略の推進においては、環境モデル都市の過程において環境部局で検討したロードマップとすり合わせが必要である。ロードマップの実現については、財源が問題となるが、脱温暖化は徹底的に実施していく必要がある。公共に財源がなければ、民間の財源を活用する方法を検討すべきである。

（土井委員：京都大学大学院特定教授）

- まちなかの商業施設に、ヒアリングと交通手段の実態調査を実施したところ、商業者が思っていた以上に、公共交通で来店される割合が高く、自動車での来店は少ないという結果があった。固定観念は恐ろしいもので、実態を調べてみると想定と色々違ったりすることがある。このように、実際のデータを示すことにより、山形委員が言われる総論賛成・各論反対の状況の流れを変えることが出来るか可能性がある。

（塚口会長：立命館大学教授）

- 本日の多様な意見については、一口でまとめることはできないので、事務局の方で整理して、反映していただきたい。
- 公共交通を使う人は、歩くことに対する意識・態度が異なるという研究結果もあるので、満足度について他の指標と関連付けると良いのではないかな。

■醍醐コミュニティバスからの報告

（今福代理：醍醐コミュニティバス市民の会事務局長）

- 醍醐コミュニティバスについて、記念式典ならびに配布した冊子、時刻表・路線図、DVDについて説明

（３）閉会（由木副市長）

- 年度末の大変お忙しい中、お時間をいただき、塚口会長ならびに委員の皆様に活発な御議論をいただき感謝申し上げます。
- 東日本大震災と計画停電の状況をみていると、過度にエネルギーを使用しないまちをつくるということの重要性を改めて認識しているところである。財源の問題をいろいろとご指摘いただき、気持ちを新たに取り組んでまいりたい。
- 今後とも、引き続きご意見ご議論を宜しくお願い申し上げます。

第3回「歩くまち・京都」推進会議 出席者名簿（敬称略）

	所 属 ・ 役 職 等	氏 名	代 理 出 席 者
会 長	立命館大学教授	塚口 博司	
副会長	京都大学名誉教授	内藤 正明	
委 員	国土交通省近畿地方整備局建政部長	有安 敬	建政部都市整備課長 小路 剛志
	醍醐コミュニティバス市民の会会長代行	岩井 義男	事務局長 今福 久
	京都市地域女性連合会副会長	佐伯 久子	
	神戸大学大学院教授	正司 健一	
	京都大学大学院特定教授	土井 勉	
	京都商工会議所地域開発・都市整備委員長	平井 義久	
	国土交通省近畿運輸局企画観光部長	平嶋 隆司	
	フリーエディター	藤田 晶子	
	京都府政策企画部企画監	本田 一泰	建設交通部交通政策課長 関 正典
	京都工芸繊維大学大学院教授	森本 一成	
	株式会社京都放送ラジオ編成制作局長	村上 祐子	
	京都府警察本部交通部長	山形 克己	

事 務 局 (京都市)	副市長 交通政策監 都市計画局歩くまち京都推進室長 都市計画局歩くまち京都推進室事業推進担当部長 都市計画局歩くまち京都推進室長土木技術担当部長 他	由木 文彦 水田 雅博 佐伯 康介 吉田 良比呂 中村 豊彦
----------------	---	--